

将来システムの方向性、あり方について

これまで、印西地区次期中間処理施設の整備の方向性については、印西地区ごみ処理基本計画(平成21年策定)及び印西地区循環型社会推進委員会の平成18年度提言書において、下記のように示されているところである。

■ 「印西地区ごみ処理基本計画」で定められた将来システムの方向性

[焼却系施設]

- ・ 省エネルギー化
- ・ 環境に与える影響を最小限に抑える
- ・ 廃棄物エネルギーを最大限活用する

[リサイクルセンター]

- ・ 環境学習機能及び情報発信拠点とする資源化施設(リサイクルセンター)に転換する
- ・ 焼却処理施設との一連の「次期中間処理施設整備事業」を推進する

[最終処分]

- ・ 当面、飛灰のみのエコセメント化を目指す
- ・ 焼却残渣の資源化については次期施設整備時にあわせて検討する

■ 印西地区循環型社会推進委員会※ 平成18年度提言書から

[施設検討部会の提言から]

- ・ 組合及び構成市町村の財政状況が逼迫しておりコスト削減できることが望ましい。
- ・ また、現有の印西クリーンセンターを活用した場合、駅前での地域の中心的な土地柄であることから、建物全体が地域と調和した意匠で、煙突がシンボリックなものであることが望ましい。

[情報発信部会の提言から]

- ・ 組合ホームページの充実や広報誌の発行
- ・ リサイクルプラザなど、情報発信拠点として充実が必要である(体験できる場として情報発信の拠点を整備することが望ましい。)
- ・ クリーンセンターでの啓発・展示の充実(小学4年生の見学や住民が気軽に利用できる場所、情報の得られる場所としての位置付け)

※印西地区循環型社会推進委員会：平成16年度策定の印西地区ごみ処理基本計画の目標「全員参加型の資源循環地区」を目指し、広く意見を聴取するため、学識経験者、住民の方々、地区内の事業者、関係機関及び行政の委員が2年に渡り、ワークショップ等での議論や環境学習の実践を行い、提言をまとめた。